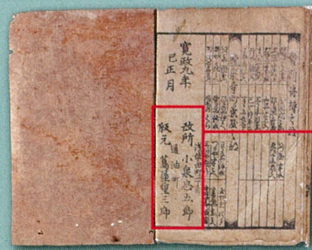


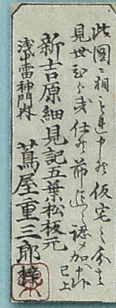
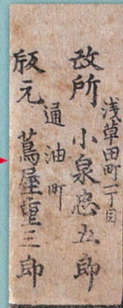
郷土・資料調査室報

2024 令和6年3月 第14号

郷土・資料調査室の貴重資料を紹介するコーナー 書庫を繙く



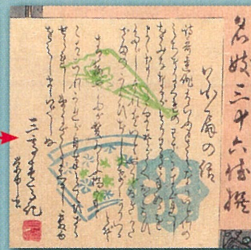
新吉原細見 寛政9年（1797）正月



天保六年新吉原仮宅場所一覧



名妓三十六佳撰 花扇の話



名妓三十六佳撰 なが尾の話

今回は、来年のNHK大河ドラマに関連して、葛屋重三郎（略称：葛重）初代から四代までの資料をご紹介します。

初代葛屋重三郎（1750-1797）は吉原（現、台東区千束）で生まれ、はじめ大門近くで本屋を営んでいましたが、天明3年（1783）には通油町（現、中央区日本橋大伝馬町）に進出、狂歌本等の名作を次々と出版、浮世絵師の歌麿や写楽、作家の十返舎一九や曲亭馬琴を世に送り出しました。また初代・二代は、同じ本屋が吉原のガイドブック「吉原細見」を55年間独占して出版し続けるという、出版史上例を見ない業績を残しました。当館所蔵品のうち、寛政9年正月の細見は、奥付（本の最末尾に書誌事項を記した箇所）に「版元 通油町 葛屋重三郎」と印刷され、この年5月7日に亡くなった初代が最後に手掛けたものとなります。

二代目は天保4年（1833）に没しました。二代目が出版した細見の中には、初代が発掘した山東京山や十返舎一九が序文を寄せるものもあります。

三代目は「天保六年新吉原仮宅場所一覧」に、「新吉原細見記五葉松 板元 浅草雷門外 葛屋重三郎梓」とあるように、日本橋から台東区、今度は浅草雷門外（現、台東区雷門）へ戻ってきました。しかし天保8年冬には、長い間独占し続けた細見の株を他の本屋に譲り、同じ年に三代目も亡くなります。

四代目は、『諸問屋名前帳』（国立国会図書館蔵）の「地本草紙問屋」の項に、嘉永5年（1852）4月、

重三郎家業向勝手=付、庄次郎江讓預済同廿四日申渡

浅草寺地中梅園院地借市右衛門店

葛屋 重三郎

と、地本問屋の株を他人（山田屋庄次郎）に譲る史料があります。細見に加え、江戸における書籍販売業から事実上撤退し、さらに少し前の天保末頃に富本節の稽古本の権利も手放すなど、四代目は事業縮小傾向にありました。

四代目の才能が開花したのは、経営ではなく文筆業でした。「名妓三十六花撰」は有名遊女を描いたシリーズで、歌麿の描く大首絵とも異なり、吉原にあった「九郎助稲荷」の提灯や細見の別名「五葉松」の鉢植など、遊女の日常を具体的に描写しています。「花扇の話」では初代葛屋重三郎在世時の遊女「花扇」の逸話を詞書に記しています。この詞書の作者「三亭春馬（二代目）」は、四代目葛屋のペンネームです。また「なが尾の話」では、四代目と同じ時代の遊女「長尾」の逸話を記しています。この浮世絵が制作された年に、四代目は亡くなりました。

以上の資料などを企画展「吉原細見の世界Ⅲ」で前後編に分けて紹介します。前編は本年6月21日（金）から開催する予定です。

令和6年度の予定（企画展・講演会）

●開催中の企画展

地図でたどる台東区の変遷

令和6年3月22日（金）～6月16日（日）

土地の情報を伝える手段として、地図は古くから用いられてきました。現実の情報を抽象化・記号化して図に表した地図は、地理空間情報を効率的に伝えることができます。

台東区立中央図書館でも、江戸切絵図や明治の下谷区・浅草区の地図、地域の案内図など、様々な地図を所蔵しています。本企画展では、当館所蔵の貴重資料の地図を用いて、台東区の変遷をたどっていきます。



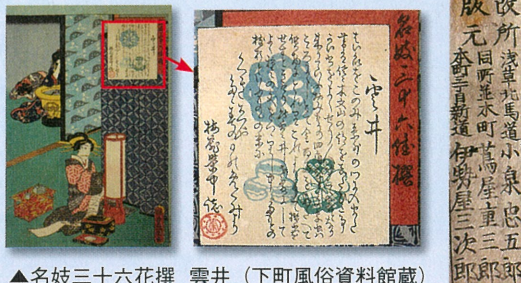
▲東都下谷絵図

吉原細見の世界Ⅲ 前編

6月21日（金）～9月16日（月・祝）

蔦屋重三郎をはじめ、吉原細見を出板した板元（版元）の視点から、台東区を舞台にした江戸文化を紐解きます。浮世絵と吉原細見に関係が深い、板元の業績も追っていきます。

■ギャラリー・トーク、講演会開催



▲名妓三十六花撰 雲井（下町風俗資料館蔵）

▲蔦重最後の細見（奥付）
天保8年（1837）初秋

池・沼・堀

9月20日（金）～12月15日（日）

かつて台東区には、不忍池をはじめとして池や沼、堀が点在していました。しかし、その多くは市街地の整備や陸上交通の発達にともない埋め立てられていき、姿を消しています。浮世絵や和紙で昔の台東区の池・沼・堀をご紹介します。

■ギャラリー・トーク、歴史散歩開催



▲江都名所 上野不忍の池

吉原細見の世界Ⅲ 後編

12月20日（金）～令和7年（2025）2月16日（日）

平賀源内、十返舎一九など、江戸時代の吉原細見に登場する有名人物を中心に紹介します。

■ギャラリー・トーク等開催



▲吉原細見 里のをだ巻評
平賀源内著

地誌の見方・調べ方

2月21日（金）～6月15日（日）

江戸時代の地誌に注目して展示します。歴史学・書誌学の視点から読み解き、また台東区地域が記された部分を深掘りします。



▲谷中・池之端付近の略図
（『再校江戸砂子 巻三』）

台東区立中央図書館 郷土・資料調査室

〒111-8621

東京都台東区西浅草3-25-16

TEL. 03-5246-5911

<https://www.city.taito.lg.jp/library/index.html>



【開館時間】

月～土曜日 午前9時～午後8時
日曜・祝日 午前9時～午後5時

【アクセス】

- つくばエクスプレス「浅草」駅
A2出口から徒歩8分
- 地下鉄日比谷線「入谷」駅 徒歩8分
- 北めぐりん・南めぐりん
「生涯学習センター北」徒歩3分
「生涯学習センター南」徒歩3分
- 都バス「入谷二丁目」停留所 徒歩3分

